

歴史と伝統が育む人となり。この街も、優れた先人を輩出し、その功績を語り継ぎ、新たな時代、新たな世代を育てて今に至ります。

笠間の偉人 ゆかりの人

この地を治め、剣術に、武道に長ける者や、神や仏に仕え、芸を誉れとし、学者、あるいは哲学者として、この国を支えてきた笠間の偉人を紹介します。



西念寺（稲田）

浄土真宗の聖典を
草稿し、宗派の礎を
築く

親鸞（しんらん）
● 浄土真宗・宗祖
1173—1262

浄土真宗の宗祖。九歳で出家し、二十年に渡る比叡山での修行後、「南無阿彌陀仏」を唱えれば、人はみな極楽浄土に往生できると説く法然の本願念仏の教えに出会う。しかし、旧仏教団の反感から流罪の身に。

罪を解かれた後、親鸞は京へは戻らず、一二二四年、笠間郡稲田郷の領主・稲田頼重に招かれ、吹雪谷の地に「草庵」を設け布教活動を行った。主著『教行信証』は、この草庵で撰述された。

岡倉天心のもとで
日本画の近代化に
尽力

大日堂（箱田）



木村武山（きむら ぶざん）
● 日本画家
1876—1942

旧笠間藩士・木村信義の長男として生まれる。武山の号は、笠間のシンボルとも言える佐白山・山上の別称「阿武山」に由来する。東京開成中学校に入学するが、翌年、東京美術学校に編入。同校教授の下村観山の強い影響を受け、一九〇六年に同氏の推挙で岡倉天心や横山大観らとともに、北茨城・五浦に一家をあげて同行する。一九一四年、大観・観山らと共に日本美術院を再興。美術院きってのカラーリストと評された。

松井康成（まつい こうせい）
● 陶芸家
1927—2003

長野県に生まれ、戦時中に笠間市に疎開する。大学卒業後、浄土宗月崇寺の住職を継ぎ、そのかたわら、廃窯となっていた山門下の窯を再興し、東洋陶磁の研究に勤しんだ。中国・宋代磁州窯に流れをくむ練上手の技法を研究。釉がはじけて割れる練上嘯裂（しょうりゃく）文や象嵌など新たな技法に対し積極的研究を続け、数多くの賞を受賞する。一九九三年、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された。

笠間の陶芸家として
初めての人間国宝

月崇寺（笠間）

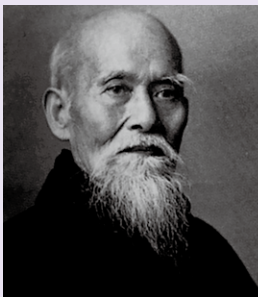


植芝盛平（うえしば もりへい）
● 合気道開祖
1883—1969

現在の和歌山県田辺市の富裕な農家に生まれた。大東流を初めとする柔術・剣術など各武術の修行成果を、独自の精神哲学でまとめ、「和合」、「万有愛護」等を理念とする合気道を創始した。身長一五六センチながら、大相撲力士を投げ飛ばすなど幾つもの武勇伝が残る。老境に至っても多くの「神技」を示し「不世出の達人」と謳われた。合気道を国際的武道に育てた功績から紫綬褒章、勲三等瑞宝章などを受賞した。

合気道を創始し、
国際的武道として
世界に広める

合気神社（吉岡）



山下りん（やました りん）
● イコン画家
1857—1939

江戸に出て浮世絵師に学び、工部美術学校に在学中に正教会に改宗。教会より派遣され聖像画家として帝政ロシアの首都・ペテルブルクに留学した。女子修道院でイコン製作技術を学び、帰国後は日本正教会の女子神学校にアトリエを構え、イコン製作に没頭した。一八九一年に竣工したニコライ堂にも作品を残した（関東大震災で焼失）。「ウラジミルの聖母」など、八十二年の生涯に三百点あまりの聖像を残した。

聖名はイリナ。
日本人最初の
イコン画家

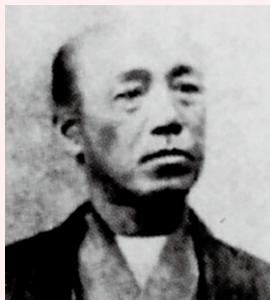
白凜居（笠間）



笠間ゆかりの偉人・ ゆかりの人びと

- ・村上巨（剣術の双璧）笠間市現流剣術指南番
- ・山本鉄之丞（剣術の双璧）笠間藩校剣術師範代
- ・島男也（笠間藩剣法引立世話役）
- ・加藤校老（儒学者・長州藩藩校明倫館教授）
- ・相馬主殿（新選組最後の局長）
- ・田中友三郎（笠間焼中興の祖）
- ・宮田栄助（実業家・宮田製銃所（現宮田工業）創設者）
- ・高野公男（作詞家）
- ・野沢拓也（サッカー元日本代表）
- ・川崎真裕美（競歩選手・アテネオリンピック・北京オリンピック・ロンドンオリンピック女子20km競歩代表）
- ・長谷川良信（教育者・淑徳大学設立）
- ・安達勇人（歌手・俳優）
- ・パンチ佐藤（元プロ野球選手・タレント・笠間サポーターズ）
- ・星野陸也（プロゴルファー）
- ・畑岡奈紗（プロゴルファー）
- ・金澤志奈（プロゴルファー）
- ・假屋崎省吾（華道家・かさま応援大使）
- ・長谷川智恵子（日動画廊 日動美術館副館長・かさま応援大使）
- ・柏木由紀子（女優・かさま応援大使）
- ・大島花子（歌手・かさま応援大使）
- ・舞坂ゆき子（女優・かさま応援大使）
- ・純烈（歌手・かさま応援大使）
- ・岩崎均（ホテルメトロポリタンエドモント総料理長・かさま応援大使）
- ・富田治（中華そばとみ田・かさま応援大使）
- ・鎌田由美子（㈱ONE・GLOBAL代表取締役・かさま応援大使）
- ・小田井涼平（歌手・かさま応援大使）

（敬称略・順不同）

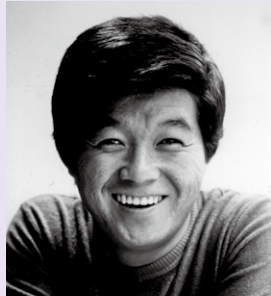


笠間城跡（佐白山）

数学を武器に
日本の文明開化に
貢献

小野友五郎（おの ともごろう）
● 数学者
1817—1898

笠間藩の算学者甲斐駒蔵に入門し、和算を修学。江戸詰めになると、甲斐と共に『量地図説』を著す。江戸幕府天文方に出仕し砲術や軍学・オランダ語を学んだ。勝海舟を補佐し航海長として咸臨丸に乗船、米国へ。帰国後、軍艦頭取に。明治政府では民生方面の業務に情熱を注ぎ、珠算の復活を建言。西洋式数学の普及にも努め、尋常小学校用の教科書『新撰洋算初步』を編纂した。



「笠間は第二の
ふるさと」が
口癖だった

笠間稲荷神社

この街では、正午に「上を向いて歩こう」、夕方に「明日があるさ」のメロディが流れる。坂本九の代表曲だ。坂本の母は大町の出身。坂本家は戦時中、笠間に疎開し、坂本は幼稚園、小学校をここで過ごした。後に、幼

坂本九（さかもと きゅう）
● 歌手
1941—1985

稚園にピアノを寄贈、石井台の旧笠間市役所建設に協力し歌謡ショーを開催するなど、この地を第二の故郷と親しんだ。女優・柏木由紀子との挙式は笠間稲荷神社。市内での盛大なパレードは今も語り草だ。



安達勇人



星野陸也



畑岡奈紗

笠間ゆかりの作品



柏木由紀子著・扶桑社刊
『上を向いて歩こう』



今野敏著・講談社刊
『天を測る』



松井康成著・講談社刊
『涅槃』



笠間の偉人 田中友三郎 漫画制作委員会・笠間市教育委員会発行
『笠間焼中興の祖 田中友三郎』